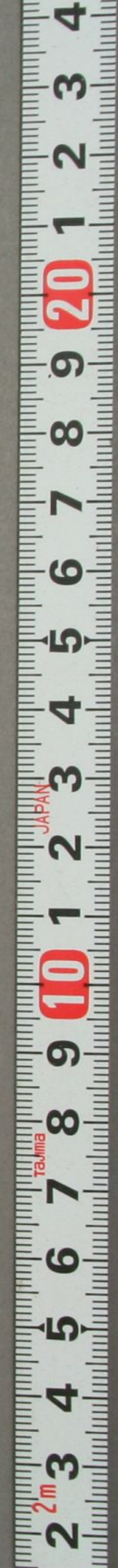


連歌部心物

伊地知文庫
文庫20
204



正月一日の年... 梅の白うめ

連歌初ん抄

伊地知氏書冊

正月

正月立。若水。年。ゆ。梅。さ。榮

庭。三月。鶯。上。雪。氷。水。く。野。鳥。み

下。の。身。○。柳。三月。長。閑。上。名。の。ま。は。り

雲。雀。く。る。此。の。名。な。の。時。自。然

一。葉。子。あ。い。き。る。か。し。の。こ。ん

一葉子 元日 天孫

去。毎。日。今。日。た。め。初。の。葉。子。は。口。は。み。ん。た。た。か。る。事



一 日星と云ふ者 先も大内の元日 十高年此

一 白馬 正月七日なり

のちの七日は月をさへ記さるふ

あはれとみまに袖のつたなり

一 穀 正月十四日 正月十六日 正月十七日 正月十八日 正月十九日 正月二十日 正月二十一日 正月二十二日 正月二十三日 正月二十四日 正月二十五日 正月二十六日 正月二十七日 正月二十八日 正月二十九日 正月三十日

二月

一 鳥 二月一日 二月二日 二月三日 二月四日 二月五日 二月六日 二月七日 二月八日 二月九日 二月十日 二月十一日 二月十二日 二月十三日 二月十四日 二月十五日 二月十六日 二月十七日 二月十八日 二月十九日 二月二十日 二月二十一日 二月二十二日 二月二十三日 二月二十四日 二月二十五日 二月二十六日 二月二十七日 二月二十八日 二月二十九日 二月三十日

一 大原 二月一日 二月二日 二月三日 二月四日 二月五日 二月六日 二月七日 二月八日 二月九日 二月十日 二月十一日 二月十二日 二月十三日 二月十四日 二月十五日 二月十六日 二月十七日 二月十八日 二月十九日 二月二十日 二月二十一日 二月二十三日 二月二十四日 二月二十五日 二月二十六日 二月二十七日 二月二十八日 二月二十九日 二月三十日

二月の初申は乃ち春の心算也

一 佛 二月一日 二月二日 二月三日 二月四日 二月五日 二月六日 二月七日 二月八日 二月九日 二月十日 二月十一日 二月十二日 二月十三日 二月十四日 二月十五日 二月十六日 二月十七日 二月十八日 二月十九日 二月二十日 二月二十一日 二月二十二日 二月二十三日 二月二十四日 二月二十五日 二月二十六日 二月二十七日 二月二十八日 二月二十九日 二月三十日

三月

一 桃花 三月一日 三月二日 三月三日 三月四日 三月五日 三月六日 三月七日 三月八日 三月九日 三月十日 三月十一日 三月十二日 三月十三日 三月十四日 三月十五日 三月十六日 三月十七日 三月十八日 三月十九日 三月二十日 三月二十一日 三月二十二日 三月二十三日 三月二十四日 三月二十五日 三月二十六日 三月二十七日 三月二十八日 三月二十九日 三月三十日

歳。清。山。少。記。ワ。バ

一。素。直。之。處。雪。滑。梅。鶯。冬。末。氷。之

拾遺

詞苑

新古今

拾遺

素直之よりいへば野の山々冬今如きらん

同

素直之れ少き者梅の花咲けりさく散るをみ

わすよの年まじの物より海より物くひはを

岩より氷けき初を若乃下の物まじ

い舟の程の冬もそと海にその海のまじ

年まじの物れなれ冬もそと海にその海のまじ

少く散るぬきまの肉も小雪可なりやうに

冬付くぬきまの肉も小雪可なりやうに

らそそりよりの人の人のひのり

見ゆらりいれ冬乃つがま付合はぬか

一。梅。舟。之。鶯。雪。滑。梅。鶯。冬。末。氷。之

一。梅。舟。之。鶯。雪。滑。梅。鶯。冬。末。氷。之

霜を梅乃れ下鶯の時をまじの物まじ

水のあひ着たる柳又春を物思ひはれ
たつたともあつて

年よれはよひおぬをわね花とれ物思

回へおしと思ふ山里に花れよりにあみふれ

又春乃散也。春風。春乃山花とて海。海

海。春のふゆ。よふ人の海。あひはる。春

海乃あはれ。嘆あもらうに色春

かき流し御おひそかひぬあつてもあはれ

花乃あめあはれと云ふ心もいとあはれ也

新花れは回へ柳は成る心ひりあはれ

又春は鳥少はは海を春はあひあはれ

又春は鳥少はは海を春はあひあはれ

又春は鳥少はは海を春はあひあはれ

又春は鳥少はは海を春はあひあはれ

又春は鳥少はは海を春はあひあはれ

又春は鳥少はは海を春はあひあはれ

又春は鳥少はは海を春はあひあはれ

又春は鳥少はは海を春はあひあはれ

又春は鳥少はは海を春はあひあはれ

又春は鳥少はは海を春はあひあはれ

又春は鳥少はは海を春はあひあはれ

又春は鳥少はは海を春はあひあはれ

又春は鳥少はは海を春はあひあはれ

又春は鳥少はは海を春はあひあはれ

又春は鳥少はは海を春はあひあはれ

新古
ワを摘神と云ふは昔野乃形火也云々此
下は云々此神乃海城若乎字のいふ事乃村清
又春乃三乃目字と云々清乃と云ふは其の月
のいふ事神杯もとりの事と云々

金糸
夏乃采れ色も若なるは白若乃今也清乃也
一春雨の日は水なり雲の庭の花は咲く
蛙も草は生む柳乃夏みどりさひまの歌
雲とくふ

新古
去雨のすり初より去柳乃糸はゆるく云々
はさしてと去乃澄みしとて去乃清し草の露
は
如くも今分りけり去雨も去乃今乃春思
一草も萌ゆるに雲消る梅咲垣杯の野
海魚も浮来せぬ魚の歌
みよりむればあやぬ人並乃治とあまの雲

新古
まもも去乃のうらわな海魚につらぬ歌云々
一柳もまの去乃もまの川魚の去乃風乃魚
魚乃まの堤の葛樹の田原の柳乃水魚
石の方松其は柳去乃か歌むとて思はれさる

道の今清水なる柳を志す日々にをり
山麓のくまのりてある柳樹はなる玉の柳

卯月

○コト短人短人 ○ウツク柳花 ○カキキス郭公 ○カキツク杜若 ○シシジユ新樹
○クヌ玉すく葛 ○ヒキ神条 ○ミヒコ短束 ○アケの原上紀 ○カキ茶
の原方 ○クサあうま草

又月

○イヤ首蒲 ○クサナ水約 ○サキタシ五月毎 ○イナ標 ○ヒタ蜜 ○カキ若竹
○サナ早苗 ○タナ橘 ○ミナ水子水子社 ○アヲ赤梅 ○セシ蝉

六月

○ロムロ米室 ○トシヤク油涼 ○クニ雲の巻 ○ユラ夕夕立 ○イシ石城
○ナシ榎子 ○トコ常衣 ○アヲあつあつ白 ○イナ扇 ○セシ蟬
○ユラ夕夕白 ○ヒナ蓮 ○イツミ泉 ○イナ林林道 ○シシ清水清水路
○コト一衣一衣 ○ナシああぬぬまま色 ○ナシななはは来来り ○ナシまま乃
○ナシ名名沙沙とと思思子 ○ナシ雲 ○ナシ庭庭ののままゆゆり
○ナシ惜惜めめたたとと海海ぬぬままとと知知ららぬぬ子子ははたたららるるななららぬぬ
○ナシ花花乃乃文文子子海海津津枝枝のの情情乃乃花花乃乃今今記記乃乃たたららぬぬ

新市 表のそえなる事なりは自然の成るごとく天の心
ハナハ 文夜の家をそと又難に付るさ位の子
親の泣服夜とうらなる世をこい推する初
お家子成る心なり

一 卯の花の^{ホトキス}時^{ホトキス}の^{ホトキス}月^{ホトキス}。山^{サト}の^{サト}垣^{サト}。玉川^{ウツカハ}

時^{ホトキス}口^{ホトキス}と^{ホトキス}お^{ホトキス}わ^{ホトキス}ら^{ホトキス}る^{ホトキス}と^{ホトキス}みる^{ホトキス}は^{ホトキス}垣^{ホトキス}根^{ホトキス}た^{ホトキス}ら^{ホトキス}ふ^{ホトキス}さ^{ホトキス}け^{ホトキス}り^{ホトキス}
卯^{ホトキス}花^{ホトキス}の^{ホトキス}い^{ホトキス}し^{ホトキス}く^{ホトキス}さ^{ホトキス}け^{ホトキス}り^{ホトキス}垣^{ホトキス}根^{ホトキス}と^{ホトキス}さ^{ホトキス}る^{ホトキス}世^{ホトキス}の^{ホトキス}成^{ホトキス}る^{ホトキス}

月^{ホトキス}の^{ホトキス}秋^{ホトキス}雲^{ホトキス}乃^{ホトキス}約^{ホトキス}卯^{ホトキス}花^{ホトキス}乃^{ホトキス}伊^{ホトキス}く^{ホトキス}さ^{ホトキス}ぬ^{ホトキス}玉^{ホトキス}川^{ホトキス}乃^{ホトキス}と^{ホトキス}
一 卯^{ホトキス}花^{ホトキス}の^{ホトキス}い^{ホトキス}し^{ホトキス}く^{ホトキス}さ^{ホトキス}け^{ホトキス}り^{ホトキス}垣^{ホトキス}根^{ホトキス}と^{ホトキス}さ^{ホトキス}る^{ホトキス}世^{ホトキス}の^{ホトキス}成^{ホトキス}る^{ホトキス}

卯^{ホトキス}花^{ホトキス}の^{ホトキス}い^{ホトキス}し^{ホトキス}く^{ホトキス}さ^{ホトキス}け^{ホトキス}り^{ホトキス}垣^{ホトキス}根^{ホトキス}と^{ホトキス}さ^{ホトキス}る^{ホトキス}世^{ホトキス}の^{ホトキス}成^{ホトキス}る^{ホトキス}

卯^{ホトキス}花^{ホトキス}乃^{ホトキス}垣^{ホトキス}根^{ホトキス}の^{ホトキス}い^{ホトキス}し^{ホトキス}く^{ホトキス}さ^{ホトキス}け^{ホトキス}り^{ホトキス}垣^{ホトキス}根^{ホトキス}と^{ホトキス}さ^{ホトキス}る^{ホトキス}世^{ホトキス}の^{ホトキス}成^{ホトキス}る^{ホトキス}

卯^{ホトキス}花^{ホトキス}乃^{ホトキス}垣^{ホトキス}根^{ホトキス}の^{ホトキス}い^{ホトキス}し^{ホトキス}く^{ホトキス}さ^{ホトキス}け^{ホトキス}り^{ホトキス}垣^{ホトキス}根^{ホトキス}と^{ホトキス}さ^{ホトキス}る^{ホトキス}世^{ホトキス}の^{ホトキス}成^{ホトキス}る^{ホトキス}

卯^{ホトキス}花^{ホトキス}乃^{ホトキス}垣^{ホトキス}根^{ホトキス}の^{ホトキス}い^{ホトキス}し^{ホトキス}く^{ホトキス}さ^{ホトキス}け^{ホトキス}り^{ホトキス}垣^{ホトキス}根^{ホトキス}と^{ホトキス}さ^{ホトキス}る^{ホトキス}世^{ホトキス}の^{ホトキス}成^{ホトキス}る^{ホトキス}

卯^{ホトキス}花^{ホトキス}乃^{ホトキス}垣^{ホトキス}根^{ホトキス}の^{ホトキス}い^{ホトキス}し^{ホトキス}く^{ホトキス}さ^{ホトキス}け^{ホトキス}り^{ホトキス}垣^{ホトキス}根^{ホトキス}と^{ホトキス}さ^{ホトキス}る^{ホトキス}世^{ホトキス}の^{ホトキス}成^{ホトキス}る^{ホトキス}

をらあに海人たりて月海とて
らん物りくみ流しと夕立の夕に
はるりる

一着葉にいのちの葉をとりて
山の草。月の照

花散るの春も夜合天照月
又草の志けにむ月。道の
荒山。あつて野まはる川
氷のながれりる。花ちるわ

可憐也

大の海を渡るも多う
一螢の光。草。川。草村。作
月の涼。月。窓。螢。雪
灯。又螢の光。螢。雪
月。螢。草。螢。雪

一橋よ。時。月。草。螢。雪
のた。輝。乃。草。螢。雪

○静とたりよ用付とてふ可あり

み月ぬいぬ橋し風かけたる星まはにふひり

宿らうとて橋と極垂て者とうつはすも成る

み月ぬいぬ橋の影のたけと浪のたけ

河橋のをえくよ成○まはるの影のたけ

ゆきとあり○まのたけとまのたけ○まのたけ

ゆきとあり○早苗とあり

み月ぬいぬ橋の影のたけと浪のたけ

み月ぬいぬ橋の影のたけと浪のたけ

み月ぬいぬ橋の影のたけと浪のたけ

一蟬よ○夏山○梢○あけくさ日○森

夏山の影のたけと浪のたけ

源氏物語の巻よ夏山記のたけと浪のたけ

蟬のよむとありとありとありとありとあり

びとかならるるあつとありとありとあり

夕をまらた照見のたけと浪のたけ

又ありとありとありとありとありとあり

秋を記しとありとありとありとありとあり

^{クサ}秋の初風^{ハルハ}。秋暑^{ハルハ}。秋^{アキ}。秋^{アキ}。女^メ。花^{ハナ}。
 秋分^{アキブン}。法^{ホウ}。上^{ウヘ}。鳴^{ナリ}。上^{ウヘ}。麻^{アサ}。上^{ウヘ}。

八月

一草^{クサ}花^{ハナ}。カ。少^シ。心^{ココロ}。ひ。や。く。く。秋^{アキ}。月^{ツキ}。
 八月九月^{ハチツキクニヤウ}正^{マコト}。求^{モトメ}。野^ノ。を。野^ノ。を。野^ノ。を。
 鷹^{トビ}。冷^{ヒヤ}。し。さ。求^{モトメ}。野^ノ。を。野^ノ。を。野^ノ。を。
 蘭^{ラン}。八月の葉^{ハチツキノエ}。

九月

秋^{アキ}。月^{ツキ}。葉^{エハ}。秋^{アキ}。菊^{キク}。菊^{キク}。菊^{キク}。
^{アキ}心^{ココロ}。少^シ。心^{ココロ}。ひ。や。く。く。秋^{アキ}。月^{ツキ}。
^{アキ}八月九月^{ハチツキクニヤウ}正^{マコト}。求^{モトメ}。野^ノ。を。野^ノ。を。野^ノ。を。
 鷹^{トビ}。冷^{ヒヤ}。し。さ。求^{モトメ}。野^ノ。を。野^ノ。を。野^ノ。を。
 蘭^{ラン}。八月の葉^{ハチツキノエ}。

村^{ムラ}。の。落^ア。し。ま。さ。ひ。ね。秋^{アキ}。月^{ツキ}。葉^{エハ}。秋^{アキ}。菊^{キク}。菊^{キク}。菊^{キク}。
 秋^{アキ}。月^{ツキ}。葉^{エハ}。秋^{アキ}。菊^{キク}。菊^{キク}。菊^{キク}。
 秋^{アキ}。月^{ツキ}。葉^{エハ}。秋^{アキ}。菊^{キク}。菊^{キク}。菊^{キク}。
 秋^{アキ}。月^{ツキ}。葉^{エハ}。秋^{アキ}。菊^{キク}。菊^{キク}。菊^{キク}。

秋されど白鳥は我を懐きゆく上夜更討分
病に神は相思はさそれど必秋のなごひを
霧のまよひ。秋風の泣。月乃をさ。秋乃
うひつなり。病。鷹の飛。川。宇津川
コスエ。イロ
木末の糸もりね

晴や川原の波もさそ下ひくしの神の釣書
かひくも明石の浦は釣書もつれ釣書とて来
藤とて宇津川原をさそふ雲井ふの釣書
物別々の川原をさそふ川原をさそふ

まぐ鳥の書はさそふ火余の書は満つ時
夕雲も掛もみど川原の書は釣書の書は
又雲も掛もみど川原の書は釣書の書は
の釣書の書は

月少の虫鳴。病。鷹。礎。南橋。下橋
重衣。秋の雨。村。秋。暑の
所ぬ。秋の雨。村。秋。暑の
風吹。秋の雨。村。秋。暑の
海と海をさそふ

日よ月おしりて 飛鳥は 軒を 寄る 枝の 葉に
暮月と 枝の 影に 抱かれ ぬる 月を しの 末に 雲く
夜更け 月を 抱き ぬる 月を 抱き ぬる 月を 抱き ぬる
又月と なる ぬる ぬる ぬる ぬる ぬる ぬる ぬる ぬる
夜更け 月を 抱き ぬる 月を 抱き ぬる 月を 抱き ぬる
月を 抱き ぬる 月を 抱き ぬる 月を 抱き ぬる 月を 抱き ぬる

月を 抱き ぬる 月を 抱き ぬる 月を 抱き ぬる 月を 抱き ぬる
月を 抱き ぬる 月を 抱き ぬる 月を 抱き ぬる 月を 抱き ぬる
月を 抱き ぬる 月を 抱き ぬる 月を 抱き ぬる 月を 抱き ぬる
月を 抱き ぬる 月を 抱き ぬる 月を 抱き ぬる 月を 抱き ぬる

一鷹 月を 抱き ぬる 月を 抱き ぬる 月を 抱き ぬる 月を 抱き ぬる
月を 抱き ぬる 月を 抱き ぬる 月を 抱き ぬる 月を 抱き ぬる
月を 抱き ぬる 月を 抱き ぬる 月を 抱き ぬる 月を 抱き ぬる
月を 抱き ぬる 月を 抱き ぬる 月を 抱き ぬる 月を 抱き ぬる

秋風子初馬子モトの多タの道ミチの事コトと云イふ事コトは

一イチ麻マ子シの田タ野ノ。山ヤマ。小倉山コクラヤマ。山ヤマ。山ヤマ。山ヤマ。

野ノ。明アキラ夜ヤ。紅ベニ糸イト。小野コノの事コト。秋アキ。

山ヤマの事コトは、鳴ナリ麻マ子シの村ムラの事コトは、

山ヤマに稲イネの風カゼは、秋アキの事コトは、

山ヤマに秋アキの事コトは、依ヨり麻マ子シの事コトは、

秋アキの事コトは、麻マ子シの事コトは、

秋アキの事コトは、麻マ子シの事コトは、

秋アキの事コトは、麻マ子シの事コトは、

秋アキの事コトは、麻マ子シの事コトは、

秋アキの事コトは、麻マ子シの事コトは、

秋アキの事コトは、麻マ子シの事コトは、

秋アキの事コトは、麻マ子シの事コトは、

秋アキの事コトは、麻マ子シの事コトは、

秋アキの事コトは、麻マ子シの事コトは、

秋アキの事コトは、麻マ子シの事コトは、

秋アキの事コトは、麻マ子シの事コトは、

秋アキの事コトは、麻マ子シの事コトは、

秋アキの事コトは、麻マ子シの事コトは、

にきりけりて山田乃冠にほせりてと交

こぼれたる中にはのりきりてはしるるを道

一紅葉にほのめりて麻の車

停車若電柵

空谷。小倉山。藤原氏紅葉祭あり

酒。林間。燗酒。焼酎。山崎

病雨毎り山崎乃紅葉祭あり大杉山紅葉祭

下紅葉祭あり山崎乃紅葉祭あり大杉山紅葉祭

小倉山紅葉祭あり大杉山紅葉祭あり

林あり大杉山紅葉祭あり大杉山紅葉祭あり

源氏あり大杉山紅葉祭あり大杉山紅葉祭あり

菊にほのめりて林の紅葉。紅葉。月。籬

山崎。藤。酒。仙人。藤

我々紅葉の道あり大杉山紅葉祭あり大杉山紅葉祭あり

人あり大杉山紅葉祭あり大杉山紅葉祭あり

我々の道あり大杉山紅葉祭あり大杉山紅葉祭あり

仙人の道あり大杉山紅葉祭あり大杉山紅葉祭あり

仙人の道あり大杉山紅葉祭あり大杉山紅葉祭あり

澁氏の辭の類々々々此は甚だしく
くみれどもひよきされらんらほき抄合
菊と折ていたくさうへんせり

十月

木の葉らる。木松。時。菊。子。
のうへ。松野。のころ。水

十月

霜。氷。雪。松系。神系。雪。霧。
十二月

の木の葉。年の影。表。雪。松。
一。松。出。山。風。嵐。時。ゆ。た。
の。ま。し。く。成。昔。の。ま。さ。り。ま。
松。風。月。の。ま。り。山。雲

於田門紅雲なる新のひらふをり時重吉
非吾月風は木の葉れ敷時をり。月。松。
冬のみえしわらふは松系は松系。松系。
少倉山藤の里は松系敷松系。月。松。

又舟の鼻をなすは船をよしの舟のせりよ
どりよのせりなり

我々は月夜に舟をこぎゆ。枯野の舟田。家

の夜。菊。楊。雲のり。雲のり。雲のり

虎。松。松。松。松。松。松。松。松

我々神のく。地。舟。舟。舟。舟。舟。舟

我々舟の山田の村。舟。舟。舟。舟。舟。舟

水と。舟。舟。舟。舟。舟。舟。舟。舟

又白髪。舟。舟。舟。舟。舟。舟。舟。舟

の。舟。舟。舟。舟。舟。舟。舟。舟

月照。舟。舟。舟。舟。舟。舟。舟。舟

一千。舟。舟。舟。舟。舟。舟。舟。舟

須。舟。舟。舟。舟。舟。舟。舟。舟

舟。舟。舟。舟。舟。舟。舟。舟

思。舟。舟。舟。舟。舟。舟。舟。舟

七

こまきなるお針は浦まき處てお引り破す處に
漢語にこまきなるお針は浦まき處てお引り破す處に
源氏次乃まきまきいのみまきこまき
小子なるどあんれり

なまきなる法發に鳴喚ひたり神美の命もあ
一時ぬ中にお葉の月のひら。雲の神女
月夜に。藤のゆきとふ。葉とら。を山
松のやみ樹のまはらふお葉とて散らるえ
月夜野の山は葉をまはらふお葉のまはらふ

又藤のまはらふお葉とて散らるえ
一帯に。樹のひら。雲の神女
藤のまはらふ。葉とら。を山
彩子なる。お葉とら。を山
さひさいのふせよ。お葉とら。を山
山に。お葉とら。を山
みりののふせよ。お葉とら。を山
お葉とら。を山

舞
白妙に引出され成にけり我かよ年長
又櫻サクラ花ハナをコトもコトてコト対ツ多クなリおノイヒ也
夏ナツのヨ来キ乃ハ月ツキ秋アキ月ツキ光ヒツク付ツくニもハ思ハひナりハ付ツくニ
恰シとトりハひツ友トモ好コトのニの字をコトもコトてコトあルハハ

是コト二ニの方をコトひキまト
一ハ教ホシのハ先マテ二ニ句クはハ御ミへハごん一ハ所トなリなリとハ
恰シとトりハ又マタ勿レ湯ユ也ハ先マテ人ヒトをコトもコトてコトあルハハ
手テはハ合アわリてハ先マテ車クルマのハおノおノのハ風カゼはハ
たハなハおノさハらハきハひハらハなハおノおノのハありハなハらハなハ

いハらハなハらハ一ハたハらハなハらハおノおノのハおノおノ
夕ツキ露ツキ乃ハ梢ハまハらハ柳ヤナギのハれハ 宗ムネ母ハハ
露ツキのハ梢ハまハらハとハ云ク也ハ先マテ人ヒトをコトもコトてコトあルハハ
あハらハまハらハまハらハのハ洞アナのハ風カゼをコトもコトてコトあルハハ
いハらハなハらハ一ハたハらハなハらハおノおノのハおノおノ

花ハナなハらハ一ハとハ秋アキのハ月ツキをコトもコトてコトあルハハ 絶ツツ色シキ
九月ク十ジュウ三サン日ニチのハ秋アキのハ月ツキをコトもコトてコトあルハハ
とハえハ柳ヤナギとハわハぬハらハとハあハらハなハらハにハおハりハ

うらなり可也しみかゝるん箱の

此れは終つたかゝるにたはよきとみ
先も終つたかゝるにたはよきとみ

うらなり可也しみかゝるん箱の

箱の可也しみかゝるん箱の
又昔の教のまゝに
さきと云はるをうらなり

山松生ひなすゝまの岩を

うらなり可也しみかゝるん箱の
又昔の教のまゝに
さきと云はるをうらなり
うらなり可也しみかゝるん箱の
又昔の教のまゝに
さきと云はるをうらなり

おとれと風は物も花も都

新しうりて

梅も橘の花も白せて柳の枝もさそててり

清らさのしるさのしと神ひつりあり

一様抄の教句あいに川とて急て百世

とこしあさるる事下句はあさるる

なるとあひまのなるとを教句なる

ぬるも海は又表少付あつては抄の教

句はわつても之を記の山は別れの教あり

春風り初人志と柳の風 祇云

けむる春風吹く人柳志とて風はあは

た初人志とてあはなるもとて句は又

に初人志とては抄の教あり

一編の句とて句のやとては極よ教句

初りては時をわらうあやにたは

平句なり

萬葉りる春風初めとては

の句は初めとては

山庭墨中キとカにラキ人ハなるクあかク

をクくハのキをカわカけテけレのカに

わカとカのキ事トなるハひクたカ口カあカらシ

一タ先セのタ海キくシうキをカれカて

をカけカとカのキ事トなるハひクたカ口カあカらシ

かカひカとカのキ事トなるハひクたカ口カあカらシ

とカとカのキ事トなるハひクたカ口カあカらシ

とカとカのキ事トなるハひクたカ口カあカらシ

とカとカのキ事トなるハひクたカ口カあカらシ

とカとカのキ事トなるハひクたカ口カあカらシ

とカとカのキ事トなるハひクたカ口カあカらシ

とカとカのキ事トなるハひクたカ口カあカらシ

とカとカのキ事トなるハひクたカ口カあカらシ

とカとカのキ事トなるハひクたカ口カあカらシ

とカとカのキ事トなるハひクたカ口カあカらシ

とカとカのキ事トなるハひクたカ口カあカらシ

とカとカのキ事トなるハひクたカ口カあカらシ

とカとカのキ事トなるハひクたカ口カあカらシ

とカとカのキ事トなるハひクたカ口カあカらシ

とカとカのキ事トなるハひクたカ口カあカらシ

用付くは 何れとて 縁の二態

一松 マツ 杖 ツヅミ なもよ

一馬車 ウマクルマ るまふ

一花 ハナ 子

一虹 ニジ 子 橋 ハシ 山 ヤマ ド ド の ノ ま マ あ ア せ セ 下 カ

一車 クルマ に

一屏 ビョウ 子 写 シヤ 繪 エ

一舟 フネ 子 雪 ユキ

一葛 クズ に

一松 マツ 介 ケ 柵 サシ

一法 ホウ 介 ケ 柵 サシ

一袖 スリーブ の ノ う ウ り リ 都 ト

一扇 アブキ 子

一面 オモテ 子

一尾 ビ 子

一菘 スラ 子

一菘 スラ 子 菅 スガ の ノ ん

一酒 サケ 子 晒 シヤウ

一船 フネ 子 媼 オナト 網 アミ

一舟 フネ 子

一舟 フネ 子

一舟 フネ 子

一舟 フネ 子

一舟 フネ 子

一舟 フネ 子

一舟 フネ 子

一舟 フネ 子

一舟 フネ 子 月 ツキ の ノ う ウ り リ 都 ト

一舟 フネ 子

一舟 フネ 子

一舟 フネ 子

一舟 フネ 子

一舟 フネ 子

一舟 フネ 子 結 ムスビ の ノ う ウ り リ 都 ト

一舟 フネ 子

一舟 フネ 子

一舟 フネ 子

一舟 フネ 子

一 水鳥 ヨカセ

一 正 ヨカセ

一 ちりく

一 花あり

一 月の水

一 柴 シラ

一 うれ ウレ

一 水田 ヨダ

一 志 シ

一 水鳥 ヨカセ

一 加 カ

一 魚 イサ

一 切 キ

一 釣 ツリ

一 水鳥 ヨカセ

一 と ト

一 人 ヒト

一 水 ミヅ

一 水 ミヅ

一 鏡 カガミ

一 水 ミヅ

一 水 ミヅ

一 水 ミヅ

一 水 ミヅ

一 水 ミヅ

隠題小付の事

六

あむ ぬけり

あむ 釣より魚をよみて

世のいづれをみるくろく

あまのあそび

あまのあそびのあそびのあそび

あまのあそびのあそびのあそび

あまのあそび

あまのあそびのあそびのあそび

あまのあそびのあそびのあそび

あまのあそびのあそびのあそび

あまのあそび

あまのあそびのあそびのあそび

あまのあそびのあそびのあそび

あまのあそびのあそびのあそび

あまのあそびのあそびのあそび

あまのあそびのあそびのあそび

あまのあそびのあそびのあそび

あまのあそびのあそびのあそび

一解に。鳥。酒。三。輪。山。牛。徒。者の。旗。目。
月力より立寄る。木。海。夜。家。乃。事。念。言。

一車に。乃。幸。リ。ウ。ク。ハ。の。言。志。の。言。は。
モ。三。十。ク。ル。ニ。三。ノ。ユ。キ

紅。系。の。り。と。田。の。氷。後。氷。車。に。て。は。信。の。系。
モ。三。十。カ。ク。セ。キ。ハ。ユ。キ。ニ。モ。三。十。カ。ク。セ。キ。

一浪。下。ハ。尾。花。知。花。

一扇。丹。園。月。舞。

斑。女。園。中。林。扇。色。
ジ。ヨ。カ。チ。ヤ。ノ。ウ。キ。ノ。シ。ン。セ。ン。イ。ロ。

一蔭。場。五。楸。の。紅。系。楸。く。り。紅。系。
サ。ラ。ラ。モ。三。十。カ。ク。セ。キ。ハ。ユ。キ。ニ。モ。三。十。カ。ク。セ。キ。

一お。ド。修。ま。の。せ。と。し。と。本。

一楸。り。ハ。芽。原。

楸。生。つ。若。さ。の。芽。原。を。れ。を。免。す。而。て。は。免。
ユ。キ。ニ。モ。三。十。カ。ク。セ。キ。ハ。ユ。キ。ニ。モ。三。十。カ。ク。セ。キ。

一た。ら。ぬ。家。に。の。家。を。付。わ。せ。は。免。す。而。て。
ユ。キ。ニ。モ。三。十。カ。ク。セ。キ。ハ。ユ。キ。ニ。モ。三。十。カ。ク。セ。キ。

一萩。り。

一田。子。の。柳。の。葉。の。恩。の。入。の。次。の。星。
ユ。キ。ニ。モ。三。十。カ。ク。セ。キ。ハ。ユ。キ。ニ。モ。三。十。カ。ク。セ。キ。

一村。子。の。柳。の。葉。の。恩。の。入。の。次。の。星。
ユ。キ。ニ。モ。三。十。カ。ク。セ。キ。ハ。ユ。キ。ニ。モ。三。十。カ。ク。セ。キ。

一堤。子。の。柳。の。葉。の。恩。の。入。の。次。の。星。
ユ。キ。ニ。モ。三。十。カ。ク。セ。キ。ハ。ユ。キ。ニ。モ。三。十。カ。ク。セ。キ。

一

一 徒来志のけさにいひぬいなる。夕暮の静
 九市も高此橋立。花盤の静あふの門の静
 一 花紅糸と一句よわくは菊と付くよくと前
 句花冷な夜の菊とぬ
 一 後見よ。先五舟とさうふとく。先五龍
 山海の志うふよ。ゆりうらふとみるも
 一 玉繁乱うふよ。文玉系。紙よれぬと
 一 秋うのよ。国よ雲ののり入。昔の老根
 一 源さうさ。若さなぬよ。ぬれぬと

一 埋火よ。水香。梅とらうとらふよ
 一 隣子。國くつてさえ能
 一 見らとらふよ。夏
 一 お宿りよ。蝶るよ。花もじよひて
 とり本陰
 一 外記よ。馬。野らたよ
 一 梨のよ。柳乃落。落れ露
 一 小つた。み
 一 膝乃句よ。都と思ふ。熱ひにけとて

の心わく世と捨てて経山心結ツケてよ一
志シ族ガ。邪ナニハ波ハ。吉ヨシ野ノをとりてかき

一あつくむムよ

○沖津ツツ海ノありて

一酔ユイり

○舟フネはよよ

一あつくツクよ

○例レはな

一親チヤ子

○佛ホトケはなせと子乃
こころ思シ合アヒ也

其中ナカに生ナれし志シ是我ニ子コ

一親チヤり

○表ハル面サメ 昔ムカシは自ミら花ハナ茶チヤ

一おオひヒよヨ

○碁ゴ鏡カミ

一松マツり

○吳ミ作サシ松マツ

一松マツり

○おオとトくクるル面オモ

一うウ風カゼり

○去キ者モノ兼カミ。推オシ枕マク義カミ也

よはれヨハレしシ心ココロをヲてテ心ココロ結ツケてテよヨとトもモもモ

野ノ分ワキせセしシ心ココロをヲてテ心ココロ結ツケてテよヨとトもモもモ

景ケイ風フウはハ吹フキくク全ゼンくク向ムカひヒみミらラ種タネなり

一面イツメン新シンよヨうウうウ海ウミ。志シ乃ノ志シをヲ海ウミらラ乃ノ

のノ佛ブツとト。富士フジのノ山ヤマ海ウミ大オホひヒえエよヨもモもモ

一学ガクひヒ。耐ナるル片カタけケはハあアりリはハ此コノ也ナリ。都ツ此コノ

志那のぬ。先立船は南より。舟は。山

富士の海と雪のつらき山を登りて

一乃の一船子。楊

一道路をさして。楊と流る。楊はのる

草の香。あつたは。境のこの

氷の舟。流る

一葎の舟子。あれは海を渡る

一柳の舟はさあをよる。舟と舟は

一物の舟は。見たりぬ。見たりぬ

舟

一舟をたれとつりつたは。舟は。舟は。舟は

一舟ぬつた舟は。舟は

一酒子。舟は。舟は。舟は

舟。舟。舟

一舟め。舟は。舟は。舟は

一舟の舟は。舟は

一舟の舟は。舟は

一舟の舟は。舟は

一雲よま。柳葉。腐。花。花。花。花。

一花行くまの舟。海はさうりて

氷河の澤

一花の芝。花の志をまゝに花

一あられ出るとうれあつたなりぬ

一花の草。河を花柳。柳乃花

水よぬらぬらよぬらぬ

一花の枝。後の親

一夏たると山。散り花

一ひら神あつた。花の解。例の

一花とうり花。森の下草

一花とひなをさふ。木の橋

一花はる日の通。花の以て

一花とらま。花

一花とらま。花

一花とらま。花

一花とらま。花

一花とらま。花

一 存のうに。とのお。物乃守。郭ホトニキス云

一 神さうとう紀のま。神紀。川橋カハシニの屋サト

一 時トキ一ヒトなまかま。冬田フユタ乃ひつち

一 處カスミまうく紀曙アサト少。月ツキのうま紀。的アサ家

志サツラくね橋カハシくもく。海ウミ乃原ハラは翅ツバま月乃く

向ムカヒ神カミ。な紀イテおね竹タケの常ツネニヒス

一 まうーらま。媒ナカヤク乃川カハシ乃此コノ止トドマ也

一 そむきくナのコ本ホ

一 ぬるの原ハラまナらむナまナにナ。池イケ乃乃ナニ晴ハル

一 ちうチウ乃ノ月ツキ 是コノあハくク此コノ波ナミ乃ノ志シ乃ノあハ分ワケ

一 入イリ海ウミ乃ノ記キのノさサひヒ乃ノまマ乃ノ少シ。古コ乃ノ志シ乃ノあハ分ワケ。紀キ

一 乃ノ志シ。約ヤク乃ノ志シ乃ノあハ分ワケ乃ノあハ分ワケ。同ドウ乃ノ志シ乃ノあハ分ワケ

一 板イタ乃ノのノひヒ乃ノらラにニ。飛トビ乃ノ志シ乃ノあハ分ワケ乃ノ志シ乃ノあハ分ワケ

一 朝アサ乃ノのノとトまマ乃ノ元ゲン乃ノ志シ乃ノあハ分ワケ乃ノ志シ乃ノあハ分ワケ

一 堂ドウ乃ノ志シ乃ノあハ分ワケ乃ノ志シ乃ノあハ分ワケ乃ノ志シ乃ノあハ分ワケ

一 乃ノ志シ乃ノあハ分ワケ乃ノ志シ乃ノあハ分ワケ乃ノ志シ乃ノあハ分ワケ

一 乃ノ志シ乃ノあハ分ワケ乃ノ志シ乃ノあハ分ワケ乃ノ志シ乃ノあハ分ワケ

一 乃ノ志シ乃ノあハ分ワケ乃ノ志シ乃ノあハ分ワケ乃ノ志シ乃ノあハ分ワケ

一云の想乃ゆりともな紀よの雪に今宵月
○しむせ新を。終るるよなすく雪
一佛と。多あひてま。年た終り。は所
○室の戸。睡の瘡。老乃憐。昔より
寺中

一日の通れらるるま。胡蝶のゆきま
めぬ。○病あつるよ。雪はちる。○雪乃下
羽吹ちるる。○雪消る地。はの地三
さぬくしてまは

片思よのさゆり。松乃一掃。そぬ葉人
の地ま。○葉。○雪はちるる。乃のさるる
○秋まよと終る。いづ風
一掃まよ。嵐の吹をてなと。雪は地
揚。○まよと。雪は雪。月とそ記
一系よまよと。い生るる人ま。小車たあまこ
な。○雪。まよ自野。國の氏神。雪は雪
川を。雪。まよ。くまよと。酒。はかま
一掃。まよと。あま。たあま。門。池のたまり

○花ちりる涙の香気。あつたの境。いふあつた
○月をひのた

一本のなほ露の志を記する。面はなほあつた
○郭公の月よ鳴。ゆ氷の糸。村あつた

一ひくをれおの雨うきま。河あつた
○梁今うら。ゆかぬ。いそく山越。ゆき

一宿すくろる。ゆき。いそく山越。ゆき
○夕すくろる。いそく山越。ゆき

一物あつた。いそく山越。ゆき
○俄り響く。いそく山越。ゆき

一花く。いそく山越。ゆき
○蘇の響。いそく山越。ゆき

一た。いそく山越。ゆき
○山の響。いそく山越。ゆき

一響。いそく山越。ゆき
○響。いそく山越。ゆき

○響。いそく山越。ゆき
○響。いそく山越。ゆき

一 侍のちいしよのひま。那波乃解

あ自。付る者はらるる。灯の後の世を環る

一月のあまにかあくるま。秋の螢。秋の那波

ゆみわねと。浪高き川原。二子之

一 福やのらつて。火をさめらるる。神をさき

。さきさわけかめ。水の多なり。石の神

一 教とりとらさめ。神よ。舞はえひの玉

。大文人の往来。沙幸は車たなす

。ま自。祭。祭。祭。け。と。付。て。可。け。祭

何もし他さあ

一 糸乃乃。髪と。つ。ま。ま。ら。く。海。ま。ま。柳。下

う。は。つ。さ。う。う。さ。あ。る。物。は。ち。と。海。原。系。原。系

竹のあま

一 山の東風。吹。き。ま。ら。ぬ。雨。氣。の。お。ひ。き。き

。物。と。屋。あ。く。ら。小。舟。の。く。り。う。海。原

一 池乃。糸。系。た。し。く。ま。ま。ま。か。も。は。は。ら

の。ま。ま。ま。水。の。か。そ。は。水。乃。お。海。の。世。原

の。付。や。う。う。糸。系。の。り。な。る。か

一 浦のなまよそはみかたなりとにら^{ヲキツ}沖河津^ノ風

〇 ぬきぬき。松。橋のまよそとけりてと^{ヲタ}新よ
松をらよまは^{フチワタ}津の夕橋も今も吹けん^{アヒ}沖河津
也云^{ナラ}新あり^{フチワタ}舟渡りて人^{アヒ}天の橋^{ハシ}立と云^{ナラ}も
け^{ナラ}新ありて人^{アヒ}突^ケく^{ナラ}新よ

大い^{ナラ}心ゆく野の道^{ミチ}はを^{ナラ}左^{ナラ}れ^{ナラ}ま^{ナラ}さ^{ナラ}よ^{ナラ}も^{ナラ}あ^{ナラ}天
の^{ナラ}ま^{ナラ}よ^{ナラ}も^{ナラ}は^{ナラ}浦^{ナラ}ま^{ナラ}い^{ナラ}松^{ナラ}ま^{ナラ}く^{ナラ}ら^{ナラ}新^{ナラ}よ

一 志^{ナラ}さ^{ナラ}し^{ナラ}よ^{ナラ}も^{ナラ}新^{ナラ}よ^{ナラ}も^{ナラ}あ^{ナラ}は^{ナラ}灰^{ナラ}水^{ナラ}く^{ナラ}く^{ナラ}と^{ナラ}立^{ナラ}た^{ナラ}り

〇 志^{ナラ}さ^{ナラ}し^{ナラ}よ^{ナラ}も^{ナラ}新^{ナラ}よ^{ナラ}も^{ナラ}あ^{ナラ}は^{ナラ}灰^{ナラ}水^{ナラ}く^{ナラ}く^{ナラ}と^{ナラ}立^{ナラ}た^{ナラ}り
馬^{ナラ}を^{ナラ}押^{ナラ}り^{ナラ}あ^{ナラ}る^{ナラ}と^{ナラ}な^{ナラ}り

一 志^{ナラ}さ^{ナラ}し^{ナラ}よ^{ナラ}も^{ナラ}新^{ナラ}よ^{ナラ}も^{ナラ}あ^{ナラ}は^{ナラ}灰^{ナラ}水^{ナラ}く^{ナラ}く^{ナラ}と^{ナラ}立^{ナラ}た^{ナラ}り
の^{ナラ}眺^{ナラ}る^{ナラ}。夕^{ナラ}日^{ナラ}あ^{ナラ}る^{ナラ}と^{ナラ}山^{ナラ}陰^{ナラ}。新^{ナラ}よ^{ナラ}も^{ナラ}あ^{ナラ}は^{ナラ}灰^{ナラ}水^{ナラ}く^{ナラ}く^{ナラ}と^{ナラ}立^{ナラ}た^{ナラ}り

一 志^{ナラ}さ^{ナラ}し^{ナラ}よ^{ナラ}も^{ナラ}新^{ナラ}よ^{ナラ}も^{ナラ}あ^{ナラ}は^{ナラ}灰^{ナラ}水^{ナラ}く^{ナラ}く^{ナラ}と^{ナラ}立^{ナラ}た^{ナラ}り
脚^{ナラ}下^{ナラ}。新^{ナラ}よ^{ナラ}も^{ナラ}あ^{ナラ}は^{ナラ}灰^{ナラ}水^{ナラ}く^{ナラ}く^{ナラ}と^{ナラ}立^{ナラ}た^{ナラ}り

一 志^{ナラ}さ^{ナラ}し^{ナラ}よ^{ナラ}も^{ナラ}新^{ナラ}よ^{ナラ}も^{ナラ}あ^{ナラ}は^{ナラ}灰^{ナラ}水^{ナラ}く^{ナラ}く^{ナラ}と^{ナラ}立^{ナラ}た^{ナラ}り
た^{ナラ}新^{ナラ}よ^{ナラ}も^{ナラ}あ^{ナラ}は^{ナラ}灰^{ナラ}水^{ナラ}く^{ナラ}く^{ナラ}と^{ナラ}立^{ナラ}た^{ナラ}り

一 志^{ナラ}さ^{ナラ}し^{ナラ}よ^{ナラ}も^{ナラ}新^{ナラ}よ^{ナラ}も^{ナラ}あ^{ナラ}は^{ナラ}灰^{ナラ}水^{ナラ}く^{ナラ}く^{ナラ}と^{ナラ}立^{ナラ}た^{ナラ}り
新^{ナラ}よ^{ナラ}も^{ナラ}あ^{ナラ}は^{ナラ}灰^{ナラ}水^{ナラ}く^{ナラ}く^{ナラ}と^{ナラ}立^{ナラ}た^{ナラ}り

○^{ウツ}平^{ヒラ}枕^{マクラ}の^{ウツ}ゆ^ユら^クる^ナ ^キと^ヒま^ハ ^シ藤^{フジ}枕^{マクラ}の^{ウツ}き^キき^スえ^ト

○^{ユヒ}海^{ウミ}の^{ホト}都^ツ云^{クニ}。○^コこ^ノこ^ノこ^ノ

○^{ホト}す^{クニ}の^{ウツ}都^ツの^{ウツ}都^ツ。○^コこ^ノこ^ノこ^ノこ^ノ

○^{フク}吹^{フク}風^{カゼ}

○^{フク}風^{カゼ}は^{フク}た^タら^スよ^クも^ハい^ハら^ズより^ハな^カら^ズ。○^{ウツ}吹^{フク}風^{カゼ}

○^{ウツ}浦^{ウラ}の^{ウツ}竹^{タケ}は^{ウツ}い^ハら^ズな^カら^ズ。○^{ウツ}吹^{フク}風^{カゼ}

○^{ウツ}浦^{ウラ}の^{ウツ}竹^{タケ}は^{ウツ}い^ハら^ズな^カら^ズ。○^{ウツ}吹^{フク}風^{カゼ}

○^{ウツ}浦^{ウラ}の^{ウツ}竹^{タケ}は^{ウツ}い^ハら^ズな^カら^ズ。○^{ウツ}吹^{フク}風^{カゼ}

○^{ウツ}浦^{ウラ}の^{ウツ}竹^{タケ}は^{ウツ}い^ハら^ズな^カら^ズ。○^{ウツ}吹^{フク}風^{カゼ}

○^{ウツ}浦^{ウラ}の^{ウツ}竹^{タケ}は^{ウツ}い^ハら^ズな^カら^ズ。○^{ウツ}吹^{フク}風^{カゼ}

○^{ウツ}浦^{ウラ}の^{ウツ}竹^{タケ}は^{ウツ}い^ハら^ズな^カら^ズ。○^{ウツ}吹^{フク}風^{カゼ}

○^{ウツ}浦^{ウラ}の^{ウツ}竹^{タケ}は^{ウツ}い^ハら^ズな^カら^ズ。○^{ウツ}吹^{フク}風^{カゼ}

○^{ウツ}浦^{ウラ}の^{ウツ}竹^{タケ}は^{ウツ}い^ハら^ズな^カら^ズ。○^{ウツ}吹^{フク}風^{カゼ}

○^{ウツ}浦^{ウラ}の^{ウツ}竹^{タケ}は^{ウツ}い^ハら^ズな^カら^ズ。○^{ウツ}吹^{フク}風^{カゼ}

○^{ウツ}浦^{ウラ}の^{ウツ}竹^{タケ}は^{ウツ}い^ハら^ズな^カら^ズ。○^{ウツ}吹^{フク}風^{カゼ}

○^{ウツ}浦^{ウラ}の^{ウツ}竹^{タケ}は^{ウツ}い^ハら^ズな^カら^ズ。○^{ウツ}吹^{フク}風^{カゼ}

○^{ウツ}浦^{ウラ}の^{ウツ}竹^{タケ}は^{ウツ}い^ハら^ズな^カら^ズ。○^{ウツ}吹^{フク}風^{カゼ}

○^{ウツ}浦^{ウラ}の^{ウツ}竹^{タケ}は^{ウツ}い^ハら^ズな^カら^ズ。○^{ウツ}吹^{フク}風^{カゼ}

○^{ウツ}浦^{ウラ}の^{ウツ}竹^{タケ}は^{ウツ}い^ハら^ズな^カら^ズ。○^{ウツ}吹^{フク}風^{カゼ}

一 宿の月ひかりに。宇治山翠の志
はるかにまて中ま。のそくまぬく。まひ向
一 宿の月ひかりに。川上の白波。業の信ふ神
はるかにまて中ま。のそくまぬく。まひ向
一 松浦のま。城はるかにまて中ま。のそくまぬく。まひ向
一 宿の月ひかりに。川上の白波。業の信ふ神
はるかにまて中ま。のそくまぬく。まひ向

一 宿の月ひかりに。宇治山翠の志
はるかにまて中ま。のそくまぬく。まひ向
一 宿の月ひかりに。川上の白波。業の信ふ神
はるかにまて中ま。のそくまぬく。まひ向
一 松浦のま。城はるかにまて中ま。のそくまぬく。まひ向
一 宿の月ひかりに。川上の白波。業の信ふ神
はるかにまて中ま。のそくまぬく。まひ向

一 庭田の白乃黒杯（カ）をりまゐ。折（フ）はききと坊
川（カ）はひらひらと。一（カ）村乃竹（タ）。ぬ乃目（ア）を
一 乘乃男（ヨ）は雪（ユ）まゐ。相（コ）の杖乃月（メ）日（ニ）と雪（ユ）ふ
見（ミ）あやまたたか（タ）祈（イ）り。な（ナ）の月（メ）は（ハ）き（キ）。く（ク）は
。獲（ウ）乃（ノ）糸（イ）と思（オ）ふ（ホ）予（ヨ）よ。

雪（ユ）中（ナカ）の（ノ）家（カ）は（ハ）耕（コ）埋（メ）は（ハ）月（メ）は（ハ）ま（マ）は（ハ）ひ（ヒ）は（ハ）あ（ア）酒（サ）の（ノ）山（ヤマ）
一 村（ムラ）に（ニ）ま（マ）る（ル）楢（ノ）あり。ま（マ）き（キ）葛（カ）糸（イ）は（ハ）な（ナ）。楢（ノ）は（ハ）ひ（ヒ）
な（ナ）ま（マ）よ（ヨ）ま（マ）う（ウ）ら（ラ）松（マツ）。松（マツ）の（ノ）畑（ハタケ）は（ハ）ま（マ）る（ル）山（ヤマ）
と（ト）す（ス）く（ク）ま（マ）は（ハ）ひ（ヒ）ら（ラ）ん

一 砂（スナ）も（モ）楢（ノ）は（ハ）草（クサ）ま（マ）ゐ。ま（マ）る（ル）海（ウミ）は（ハ）ひ（ヒ）
一 村（ムラ）の（ノ）畑（ハタケ）は（ハ）推（オシ）来（キ）ま（マ）な（ナ）る（ル）果（ミ）は（ハ）な（ナ）る（ル）水（ミヅ）は（ハ）ひ（ヒ）
一 所（トコロ）は（ハ）ま（マ）な（ナ）る（ル）。地（チ）は（ハ）ひ（ヒ）な（ナ）る（ル）。お（オ）は（ハ）ひ（ヒ）
な（ナ）る（ル）。お（オ）は（ハ）ひ（ヒ）な（ナ）る（ル）。

一 野（ノ）は（ハ）ひ（ヒ）ら（ラ）と（ト）ま（マ）る（ル）。川（カハ）は（ハ）ひ（ヒ）ら（ラ）と（ト）ま（マ）る（ル）。
を（ヲ）ま（マ）る（ル）。楢（ノ）は（ハ）ひ（ヒ）ら（ラ）と（ト）ま（マ）る（ル）。
一 村（ムラ）の（ノ）畑（ハタケ）は（ハ）推（オシ）来（キ）ま（マ）な（ナ）る（ル）。果（ミ）は（ハ）な（ナ）る（ル）。水（ミヅ）は（ハ）ひ（ヒ）
一 所（トコロ）は（ハ）ま（マ）な（ナ）る（ル）。地（チ）は（ハ）ひ（ヒ）な（ナ）る（ル）。お（オ）は（ハ）ひ（ヒ）
な（ナ）る（ル）。お（オ）は（ハ）ひ（ヒ）な（ナ）る（ル）。

一月とあつては、^{ツツ}花よの。都と思ふ。秋の形

秋も。うら^{ツツ}花よの野へ乃落

一川浪白^{ツツ}花よの。雪とあつて水よ。竹乃^{ツツ}花よ

秋の^{ツツ}あつて。流の^{ツツ}あつて。例^{ツツ}あつて

一の^{ツツ}あつて。秋^{ツツ}あつて。月^{ツツ}あつて

一の^{ツツ}あつて。秋^{ツツ}あつて。月^{ツツ}あつて

一^{ツツ}あつて。秋^{ツツ}あつて。月^{ツツ}あつて

一^{ツツ}あつて。秋^{ツツ}あつて。月^{ツツ}あつて

わ^{ツツ}あつて。秋^{ツツ}あつて。月^{ツツ}あつて

一^{ツツ}あつて。秋^{ツツ}あつて。月^{ツツ}あつて

一^{ツツ}あつて。秋^{ツツ}あつて。月^{ツツ}あつて

一^{ツツ}あつて。秋^{ツツ}あつて。月^{ツツ}あつて

一^{ツツ}あつて。秋^{ツツ}あつて。月^{ツツ}あつて

一^{ツツ}あつて。秋^{ツツ}あつて。月^{ツツ}あつて

一^{ツツ}あつて。秋^{ツツ}あつて。月^{ツツ}あつて

一^{ツツ}あつて。秋^{ツツ}あつて。月^{ツツ}あつて

一表乃夜のけり記書。嫁乃枕すも海に寝
けり。むしひあへぬ夢

一とやまぬ夕乃ぬあひ。たのめえ約束はる
。あす越ゆ山嶺と思ふ

一藤乃りま。よひうらとね。あまのけ
の袖を。楊。志のひ車

一夕乃寝あひん。とゆやと。そとけと坪
心ゆく。業人の家路よけく

一郭云崎捨ら中。昔人うら。村ぬれはひ
一嶋乃越まらに。面守りよむと。志記先

古畑の池乃まよ。あつたぬま。越のす。夜乃
一草たぐ。生まふま。又月ぬ。うらふ。記乃

す。とらる。庭。竹のあ。うら
一うらぬ。お思ふ。あひ。あふ。背く。た記

親と志。ふ。け。か。た。ま

一木乃りぬ。吹笛。蘇の野へ。山色
の野。二奇

一作の勢はひらふ。風。まはるの勢

ゆらぎあり。船の波より

一ゆらぎもなればの葉より。虫の約。月を

雲のくねり。水麻入る。野。前拂。面。あり

わらわ。草。草。地。川。舟。は。り。る。を。り。て

一夏の夜。しら。ひ。ら。ぬ。木。の。村。の。ま。の。枕

曉。を。記。遠。守。ぬ。神。な。記。神。て。神

一。中。一。さ。い。な。り。あ。る。夜。な。記。い。そ。む。こ

く。の。中。衣。を。ぬ。枕。な。記。神。の。さ。ら。く

一。般。と。り。の。百。お。よ。い。池。乃。終。合。信。乃。ふ

一。着。味。よ。い。老。の。柳。法。云。宿。の。い

白。毛。と。山。伏。孝。子。入

一。雪。の。積。よ。い。芳。乃。乃。雪。の。付。と。忘。よ。か

一。あ。と。り。く。よ。い。余。西。り。又。契。と。く。人

一。あ。ま。り。す。ま。の。の。名。神。乃。の。こ。ら。れ。め

一。ゆ。ら。ぎ。と。神。乃。乃。同。蓮。の。上。極。を。あ

一。ゆ。ら。ぎ。と。神。乃。乃。同。蓮。の。上。極。を。あ

一。ゆ。ら。ぎ。と。神。乃。乃。同。蓮。の。上。極。を。あ

一。ゆ。ら。ぎ。と。神。乃。乃。同。蓮。の。上。極。を。あ

此作他身不平有之亦可經

了意在判

寬永十一年仲夏 改開極

